

この写真は、テントウムシの幼虫が有翅型のアブラムシを捕食している瞬間を捉えたものです。アブラムシの体の後方には透明な翅が見えており、コロニーから新たな植物へ移動するための「分散型」の個体であることが分かります。通常、アブラムシの大部分は翅を持たない無翅型ですが、個体数の増加や餌植物の状態悪化、あるいは天敵の出現などによって、一部の個体が有翅型として生まれます。いわばコロニーの未来を担う「移民部隊」ともいえる存在です。

しかし、翅を持つことは必ずしも安全を意味しません。写真の有翅型は飛び立つ前にテントウムシの幼虫に発見されてしまったようです。幼虫は発達した歩脚を使って素早く接近し、鋭い大顎でアブラムシを捕らえています。観察すると、噛み砕いて食べるというよりも、体表を破って内部の組織や体液を吸い取るような摂食方法をとるため、しばらく同じ姿勢のまま獲物に取りついていることがあります。

興味深いのは、この有翅型が本来であれば天敵の多いコロニーから脱出するために生産された個体であることです。アブラムシは自らの世代ではなく、次世代に翅を持たせることで危険を回避しようとします。しかし、その戦略が常に成功するわけではありません。飛翔能力を獲得するためには多くのエネルギーを必要とし、飛び立つ前の有翅型は植物上を移動する機会も増えるため、かえって捕食者の目に留まることもあります。



この一枚は、小さな昆虫たちの世界で繰り広げられる生存競争の一場面を鮮やかに物語っています。新天地を目指して生まれた有翅型のアブラムシと、それを餌として成長するテントウムシの幼虫。わずか数ミリの生き物同士の出来事ですが、その背後には「増えることで生き残るアブラムシ」と「探し出して食べるテントウムシ」という、長い進化の歴史の中で築かれた巧みな戦略が隠されているのです。

2026年6月中旬
北区滝野川小学校